

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/
E-mail:gyoren@kagawa-
gyoren.or.jp



JF
J F 香川漁連

高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699

第5回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー開催

「魚・シーフード・水産加工技術の国際見本市」が去る7月16日から18日までの3日間、東京有明の東京国際展示場「東京ビックサイト」東4・5ホールで開催された。このシーフードショーも回を重ねるごとに規模を拡大してきており、今回は出展社数450社・出展小間数710小間・来場者数は26,246名と過去最大となり、前回の352社・617小間・24,579名を大きく上回る出展規模となった。世界各地から集まった、水産物、多彩な水産加工品調味料・食品添加物、食品加工機械・関連装置、包装・物流機器、サービス装置等、多彩な出展製品はあらゆるシーフードビジネスを網羅している。

オープニングでは、大日本水産会の中須勇雄会長、鈴木善幸名誉会長、相沢英之衆院議員、朴圭石韓国水産会理事長、菅原昭JF全漁連副会長・服部香川県漁連会長・嶋野勝路全かん水会長をはじめ、漁業団体、海外出席者代表24人がテープカットした。中須会長は「5回目という節目を迎え、名実ともにアジア最大規模のシーフードショーに育ってきた。大きなビジネスの機会、交流の場として活用していただきたい。切磋琢磨と対話を通じ仕事の発展、魚食の拡大につながることを祈念する」と挨拶した。



オープニングのテープカット風景

同時開催セミナーとして、佐野宏哉大日本水産会前会長（現相談役）が「水産業、この10年を回顧する」として記念講演を行った。また、東京水産大学の主催「社会人ブラッシュアップセミナー」を開催

し、養殖魚介類に関する最新技術情報が紹介された。他、東京水産大学産学連携協会は「東京水産大学リエゾンセンターオープンセミナー～加熱調理の工学～」を開催。シーフードだけではなく、さまざまな食材の最新の調理方法等について研究発表がなされ活発な質疑応答が行われ活況を呈していた。

本県水産関係からは(社)香川県水産振興協会が、香川県漁連東京支所、購買事業部の協力を得、「新鮮、おいしい、かがわをたべる」をテーマに県魚「ハマチ」をはじめマダイ、メバル、アナゴ、サワラ、マナガツオ、クロダイ、シタビラメ、マダコ等のおいしい食べ方や“安全・安心・おいしい・よい品質の魚づくり”養殖履歴への取り組みをパネルで紹介するとともに、最高によいダシのでる燻製産煮干イワシの関連商品について展示PRした。またハマチにぎり寿司の実演・試食会や簡単に低コストで一夜干製品ができる冷風乾燥機「浜ちゃん」さらに、海水・淡水殺菌装置「ピュアマリン」の購買事業部取扱商品も紹介した。

香川ブースには、大小スーパーマーケット、鮮魚店など小売業者、通信販売業者といったシーフードバイヤー、外食産業者、水産加工業者、さらには自治体、漁協、漁業者などが多勢来場し、ハマチにぎり寿司に舌鼓みを打ったり、煮干製品、その他展示品に関心を寄せ、担当者に質問を投げかけていた。今後の県内水産物の消費拡大につながることを期待したい。



香川県漁連展示コーナー

讃岐地方の天気のことわざ

観天望気で安全航海

天気が我々の日常生活に深く関与し、天気を予知する必要性は昔も今も変わっておらず、昔の天気を予想する方法は、もっぱら五感に頼る“観天望気”(天体や動物の反応など自然界のいろいろな現象を観察して天気を予知すること)であった。

讃岐地方では、島や海浜が多く昔から農業、漁業、塩業などが盛んで、これに携わってきた人々、また古くから海と生活をともにしてきた土地の人々が長い間の経験を経て生活の知恵として、その土地、海域の特別な気象の現れ方を自然に体得したもの、また動物、鳥、昆虫などの行動、または日常生活の些細な事象までも判断の材料としてこれを判り易い“ことわざ”の形で今日まで語りつがれている。

天気の“ことわざ”がすべて正しいとはいえないが、“ことわざ”の中には科学的に立証されているもの、局地的現象を表現しているものなどが多く、現代の天気予報の補足的役割を果たしている。



気象の急変による
思わぬ災害から身を守るために役立つことも多く、讃岐地方の雲に関することわざには下記のようなものがある。

- = 的中率のかなり高いもの
- = = 的中率の比較的高いもの
- = = = 的中率の幾分低いもの
- = = = = 気象学的に根拠が見出せないもの

雲が西に飛べば雨、東に飛べば雨は止む。()

鱗雲が出ると雨になる。()

阿波太郎(入道雲)が南に立てば天気が続く。()

春南、夏東、秋北、冬西。()

(注) 春南、夏東、秋北、冬西に雲があれば雨。

くらた雲(鱗形の雲)が出たら雨。()

東の風で西から波雲が出たら雨。()

入道雲は夕立の相()

夏の入道雲は晴。(俄雨になるところもある)

()

雲が北西から南東にのびているとき雨。()

雲が南西から北東にのびているとき晴。()

朝もやの昼日和り。()

白雲の速いのは風吹かぬ。(観音寺地方)()

入梅に西雲風吹かぬ。(観音寺地方)()

梅雨の Kochi 雲いたら雨降らず。(観音寺地方)()

(注) 梅雨に東から雲がかかったら雨にはならない。

南の雲は嘘をいう。(詫間地方)()

(注) 上空が北東の風で南に雲が飛ぶと地上風は南西の風となり燧灘が荒れるが、時には地上風が吹かずだまされ漁師は馬鹿休みさせられる。

伊予山にアナ雲飛んで早仕舞い。(詫間地方)()

(注) 瀬戸内上空の穏やかな晴天時に太平洋から四国山脈に吹きつける風によって山頂で雲が乱れ飛ぶ状態を言い、やまじ風の前兆。

瘦せ舟方に月の表の雲見せな。(詫間地方)()

(注) 月に速い雲を見たら強い風が吹くから出漁しない。

伊予の平山わた帽子は三日の内に雨。(詫間地方)()

(注) 川之江市の背後の山に雲がかかれば雨になる。

朝曇りの洋かん晴。(詫間地方)()

(注) 海陸風は、一日二回休む。これが朝風、夕風で特に瀬戸の夕風は有名。朝風の時刻には海面からの水蒸気が朝もやとなつてたなびくのである。

備讃のもやの四ツ晴れ。(詫間地方)()

(注) 十時頃には晴れる。

坂手湾の朝霧は日中暖かい。(坂手地方)()

坂手湾の朝モヤは播磨灘にもモヤがある。(坂手地方)()

小豆島の周りにモヤがあれば翌日も天気。(池田地方)()

坂手の山に雲がかかると東の風が強くなる。(土庄地方)()

朝曇りのカンパチ。(庵治地方)()

(注) 雲が消えて良い天気になる。

八栗山に雲がかかると風は止まん。(庵治地方)()

星ヶ城(小豆島)に雲がかかると風止まん。(庵治地方)()

(注) 土用の時期に、こういう現象が起きると東の風が強くなる。また台風の時期であれば台風が近づく前兆。

東方の雲が北へ流れると雨風が近い。(志度地方)()

津田の北山に雲がかかったらタマカゼ(北東の風)が吹く。(津田地方)()
 夜明け頃雲が北から南へ走るとその夜から三日間北風が吹く。(津田地方)()
 坂手の山に雲がかかれば雨。(津田地方)()
 西の雲が飛ぶと風が吹く。(津田地方)()
 冬、与治山に雲がかかれば西が吹く。(引田地方)()
 冬、坂手の山に雲がかかれば西が吹く。(引田地方)()
 夏の終わりから秋にかけて雲が東から西に流れて竜王山に雲がかかれば大北が吹く。(引田地方)()

ニシが此の巣箱に寄ってきて、箱の外側に卵を産みつける。テングニシは多いときには 1 つの箱に百個くらい寄ってくることもある。朝日を受ける方向に八割、その他に二割ぐらいの割合。

3. 漁業の時期

八十八夜前に入れて一ヶ月位の間である。

4. 利用方法

この卵を梅酢につけて着色し、其のまま売る。子供達は中身を取り去り、口に含んで頬と舌の加減で音を出し、紙に包んで懐に入れておけば、いつでも退屈したときに気持ちをなごませてくれる。乾いて音が出なくなると水に浸せばなおる。

海ホオズキについて

海辺の子供にとって懐かしいのは海ホオズキである。海ホオズキは、巻貝の卵囊で卵を保護するのが目的であり、丈夫で海水はもとより酸にもアルカリにも侵されにくい。巻貝の種類によりホオズキ(卵囊)の形状は様々で、縁日に赤や黄色に染めて売られていたのはテングニシという巻貝が主流である。

テングニシのメスは、岩や海底に沈んでいる魚網や木の枝など卵を産むのに適当なものを見つけると、その場所をあらかじめ口で清掃してから、卵囊すなわち(海ホオズキ)を産み付ける。卵囊の型がすべて同型同大なのは、足のうらにその袋をつくる鑄型をもっているからである。1つの袋の中には数千粒の卵囊が入っていて、1匹の雌が60袋くらい産むので、莫大な数の卵を産むことになる。しかし1つの卵囊から無事に孵って這い出してくるのは10尾くらいで、残りの卵はこの子供達の栄養になってしまうのである。大きくなっても結構どう猛で二枚貝でも巻貝でも食べ、共食いさえする。

香川県ではホオズキ漁業は、終戦後の物不足の時期に重宝で、手頃な子供達の玩具として土産物店で飛ぶように売れ漁業者にとっては良い収入となった。

1. 漁具

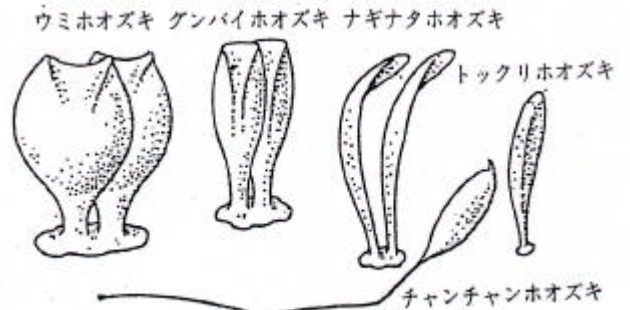
女竹の新しいものを使用し、箱形の巣箱(長さ2尺、幅1.5尺、深さ0.5尺)をつくり、一寸深くなった所に添って石の錘を入れて据付固定する。

2. 採取の状態

これを据えつけると直ぐにその付近のテング

ホオズキを作る巻貝 ()内は産卵期

- テングニシ (5~7月) ウミホオズキ
- アカニシ (5~8月) ナギナタホオズキ
- ナガニシ (5~8月) グンバイホオズキ
- ボウシュウボラ (12~2月) トックリホオズキ
- コロモガイ (夏) チャンチャンホオズキ
- ミガキボウ (夏) マンジュウホオズキ
- バイ (6~8月) アワホオズキ



主な行事予定(8/1~8/31)

- 8月4~8日(金) 一級小型船舶講習会
- 9日(土) 海づくり大会プレイント漁船パレード意見交換会
- 11日(月) 海づくり大会推進協議会幹事会
- さわら支援事業関係組合担当者会
- 13~15日(金) 盆休み
- 20~22日(金) 二級小型船舶講習会
- 26日(火) (社)香川県水産振興協会(栽培漁業分科会)
- 27日(水) 漁協監事研修会